

図2※ 北海道駒ヶ岳 最近の火山活動経過図（1995年1月～2007年10月）↑印は噴火

- ・昭和4年火口では2003年9月以降10～50m程度の噴気が時々観測されています。
- ・昭和4年火口の火口温度は、2002年以降緩やかな上昇傾向が認められていましたが、2006年秋頃からはほぼ横ばいの状況となり、2007年10月の観測では温度の低下が見られています。

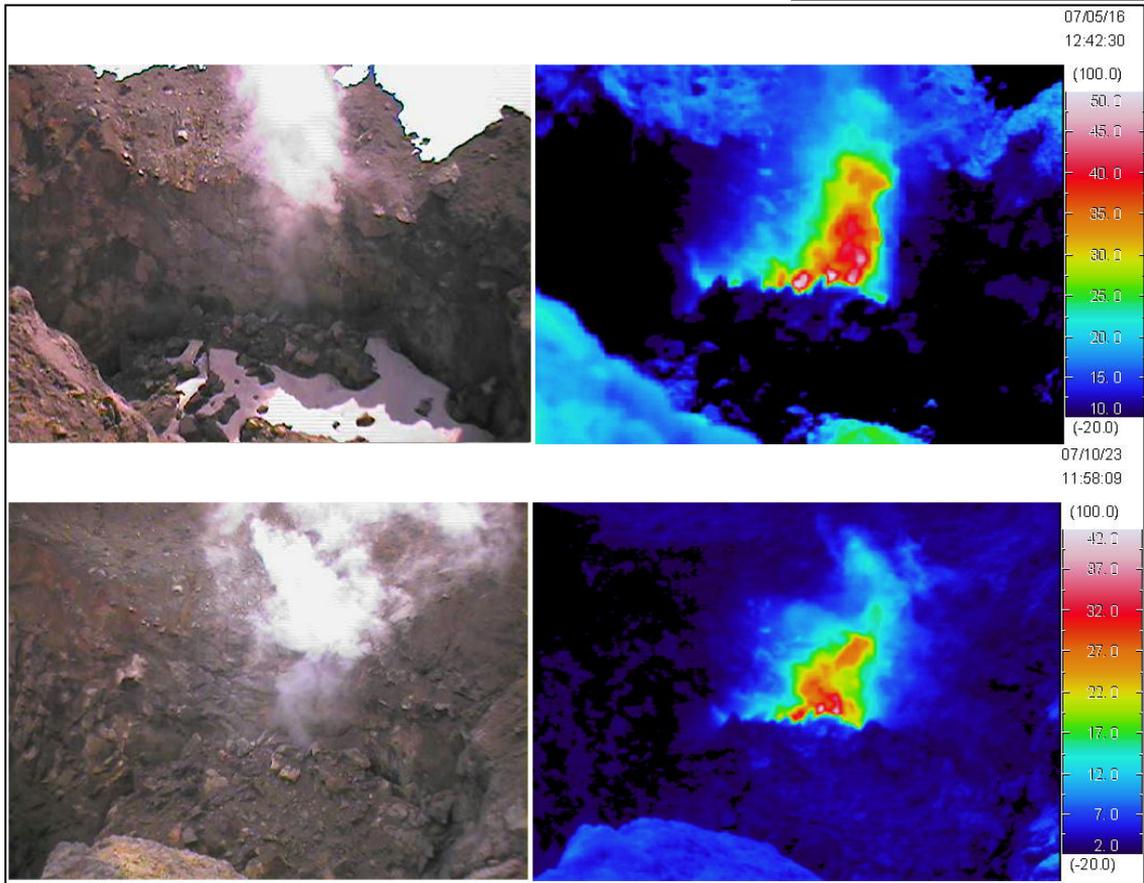


図 3 北海道駒ヶ岳 赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による昭和 4 年火口内の地表面温度分布  
(上 : 2007 年 5 月 16 日 下 : 2007 年 10 月 23 日 北西側火口縁より撮影)



図 4 北海道駒ヶ岳 上空から見た昭和 4 年火口周辺の状況  
(2007 年 10 月 31 日 図 5 の①方向から撮影)

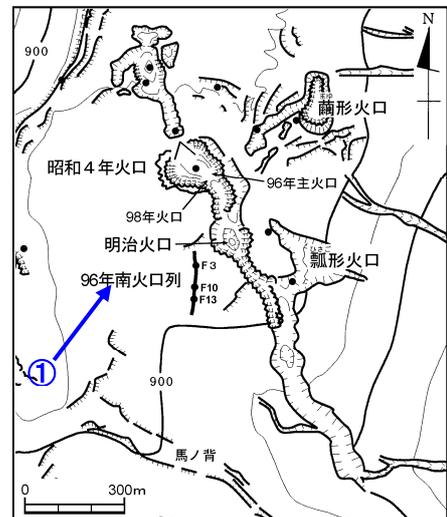


図 5 北海道駒ヶ岳 火口周辺図

- ・10 月 23 日に実施した赤外放射温度計<sup>1)</sup>による観測では、昭和 4 年火口の温度は 44℃(前回 2007 年 5 月 : 57℃)で、低下が見られました。南側火口壁の温度は 2002 年以降ゆるやかな上昇傾向が見られていましたが、2006 年秋頃から横ばいの状況となり、2007 年 10 月の観測では温度の低下が見られています。
- ・96 年南火口列では、一部の噴気孔で温度の変化が見られましたが、全体の最高温度は 76℃で前回 (2007 年 5 月 : 83℃) と比較して大きな変化はありませんでした。
- ・昭和 4 年火口周辺の瓢形(ひさごがた)火口、蕪形(まゆがた)火口、明治火口でも弱い噴気活動が続いていますが、これらの火口の熱活動が活発化する傾向は見られませんでした。

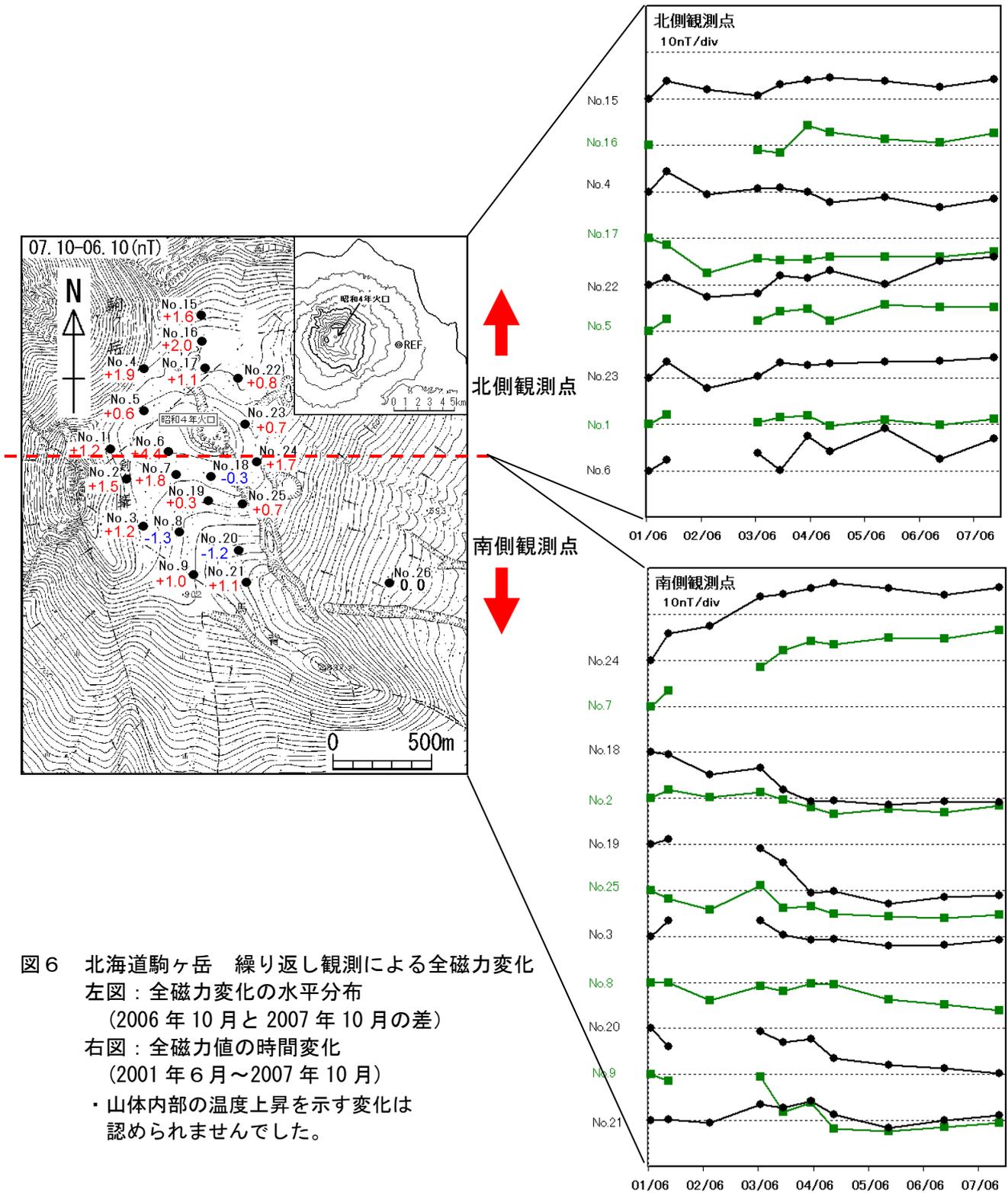


図6 北海道駒ヶ岳 繰り返し観測による全磁力変化  
 左図：全磁力変化の水平分布  
 (2006年10月と2007年10月の差)  
 右図：全磁力値の時間変化  
 (2001年6月～2007年10月)  
 ・山体内部の温度上昇を示す変化は認められませんでした。

〈補足〉 全磁力値の変化と、示唆される火口直下の温度変化

火口北側の観測点: <b>増加</b> 傾向(図中 上向き)	➡	火口直下での温度上昇を示唆する変化
火口南側の観測点: <b>減少</b> 傾向(図中 下向き)	➡	火口直下での温度低下を示唆する変化
火口北側の観測点: <b>減少</b> 傾向(図中 下向き)	➡	火口直下での温度低下を示唆する変化
火口南側の観測点: <b>増加</b> 傾向(図中 上向き)	➡	火口直下での温度上昇を示唆する変化

表 1 北海道駒ヶ岳 地震・微動の月回数 (A 点 : 図 7 の KOMA、剣ヶ峯東 : KGMH)

2006～2007 年	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
A 点地震回数	3	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1
剣ヶ峯東地震回数	25	3	2	1	4	1	2	0	3	4	1	2
A 点微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

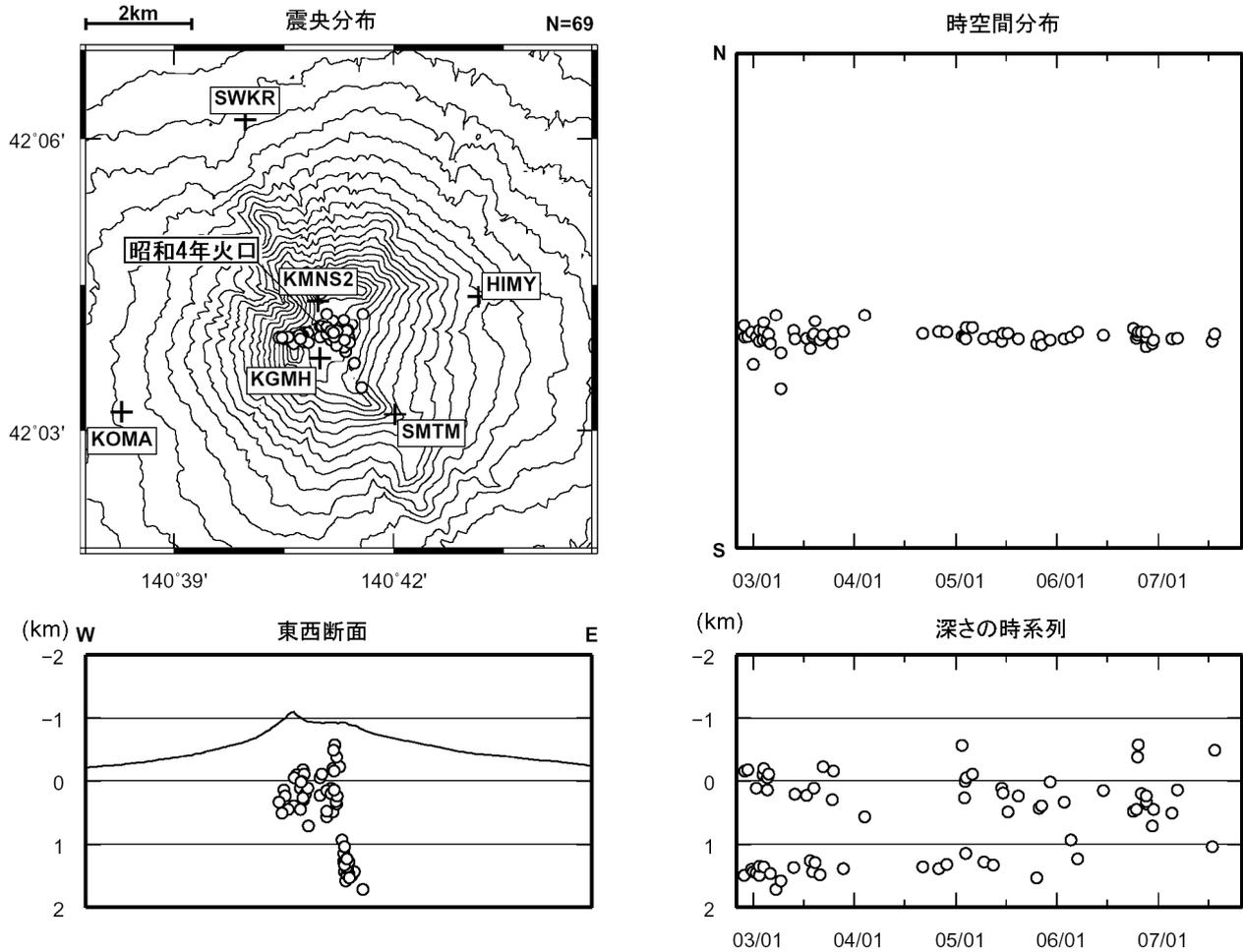


図 7 北海道駒ヶ岳 震源分布図 (2002 年 11 月～2007 年 10 月、+は地震観測点)  
 ○印は 2002 年 11 月～2007 年 9 月の震源  
 ・ これまでに求まった震源は山頂火口原直下の浅い所 (山頂から深さ約 1～3 km 付近) に分布しています。今期間に求まった震源はありませんでした。

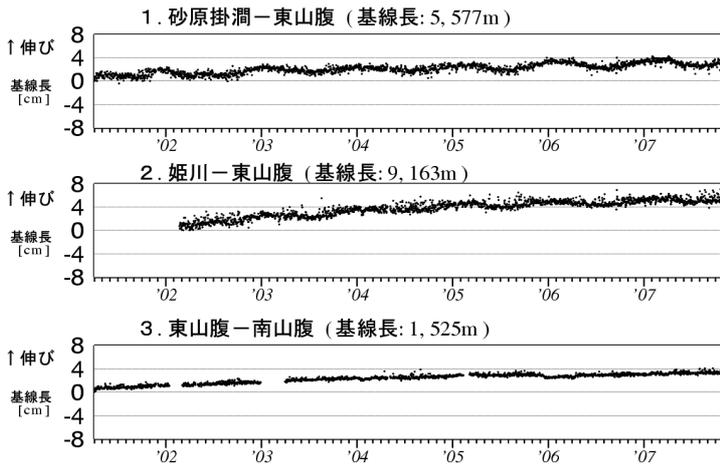


図 8 北海道駒ヶ岳 GPS 連続観測による基線長変化  
(2001 年 4 月～2007 年 10 月)  
グラフの空白部分は欠測

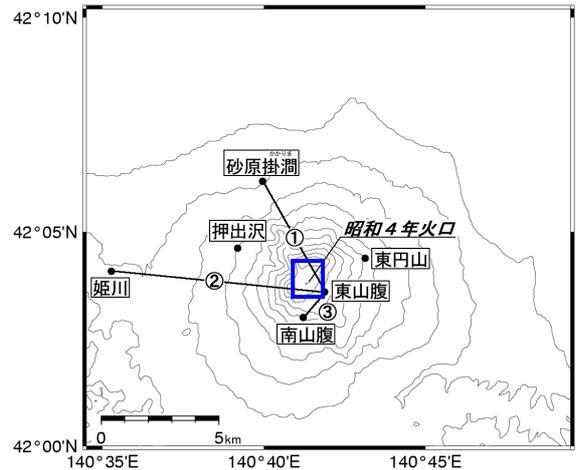


図 9 北海道駒ヶ岳 GPS 連続観測点配置図

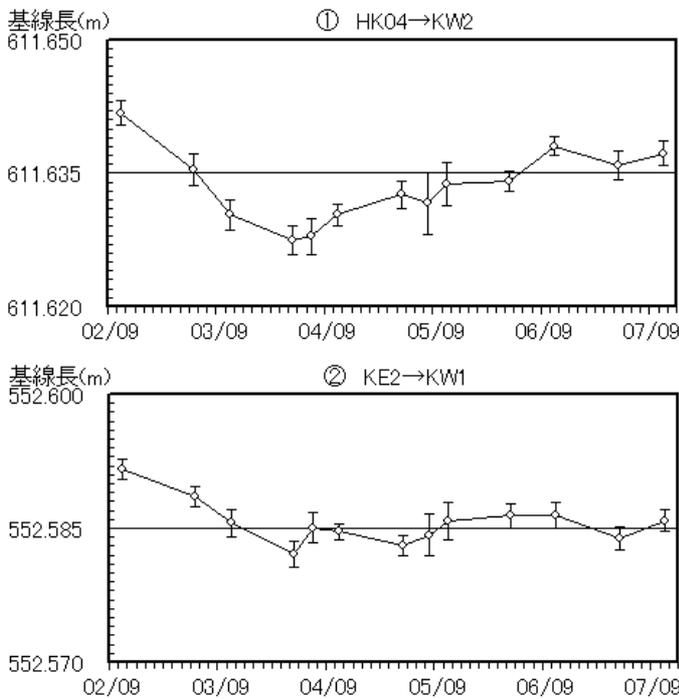


図 10 北海道駒ヶ岳  
GPS 繰り返し観測による基線長変化  
(2002 年 9 月～2007 年 10 月)

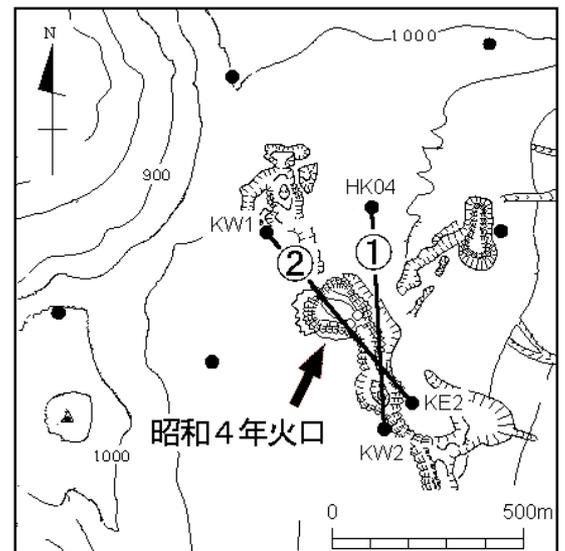


図 11 北海道駒ヶ岳  
GPS 繰り返し観測点配置図  
(図 10 の□を拡大)

- ・ 図 8 の 1～3 は、図 9 の GPS 基線①～③に対応しています。
- ・ 図 10 の①～②は、図 11 の GPS 基線①～②に対応しています。
- ・ GPS 連続観測では季節変動の影響も見られますが、わずかな山体膨張を示す基線長の伸びの傾向が引き続き認められています。
- ・ GPS 繰り返し観測では、昭和 4 年火口を挟む複数の基線で 2003 年まで収縮傾向でした。これらの基線では 2004 年に反転し、これまでわずかに膨張する傾向が見られていましたが、2006 年秋以降は概ね横ばいの傾向を示しています。